



♣グリーン電力出資金出資者  
♣グリーンコープでんき利用者 の皆様

# グリーンコープでんき通信 VOL.18

2018年12月17日発行  
一般社団法人グリーン・市民電力



やっと  
実現!

## 馬洗瀬小水力発電所と杖立温泉熱バイナリー発電所の 電気が「グリーンコープでんき」に組み込まれることに!

「自分たちが使う電気は自分たちの手で作り出そう」という決意のもと踏み出した「市民発電所づくり。今や、総出力約 10000kW、約3100世帯分の電気を賄えるまでになりました。40万を超える組合員数にはまだまだ届きませんが、いつか必ず原発のない社会を実現するという思いを持って一歩一歩進めているところです。

自分たちの発電所の電気を「グリーンコープでんき」に組み込むことは、現状の仕組みではなかなか難しいものがありますが、このたび、熊本県小国町にある馬洗瀬小水力発電所の電気が2018年11月14日から、杖立温泉熱バイナリー発電所の電気が2019年2月から、それぞれ「グリーンコープでんき」となります。

この二つの発電所は、グリーンパワー小国合同会社（小国町のローカル・パワー株式会社・環境エネルギー政策研究所・グリーン市民電力の3社共同）で事業運営されています。小水力と温泉熱という自然エネルギーの発電所は、日常的に人が目をかけ手をかけて見守ってこそ維持できるものです。落ち葉が川をせき止める、温泉の泉質がパイプに付着することで発電効率が低下する、このようなことに向き合いつつ、「グリーンコープでんき」として生かされていくことになっています。

### ■杖立温泉熱バイナリー発電所

【場所】熊本県阿蘇郡小国町大字下城  
字流泉3417  
【発電設備容量】:49kW:  
【賄える世帯数】:約100世帯

### ■馬洗瀬小水力発電所

【場所】熊本県阿蘇郡小国町大字下城  
字馬洗瀬 1847-1  
【発電設備容量】22kW  
【賄える世帯数】約50世帯



## もっと多くのグリーンコープ市民発電所の電気を「グリーンコープでんき」に!!

そのためには、グリーンコープでんき利用を増やしていく必要があります。例えば、神在太陽光発電所の電気をグリーンコープでんきとして活用するには、約10000世帯の需要がないと実現できません。一歩一歩みんなで頑張っていきましょう

「原発フリー」をめざす“グリーンコープでんき”。それなのに、大手電力会社に支払う「託送料金（電線使用料）」には、原発に使われる費用が含まれています。それは不自然でおかしくないかと考え、九州電力にどうしてそうなるのか、お尋ねしています。  
《その17》

## 2020年4月から、託送料金の中に、原発のための新たな負担金として、「賠償負担金」「廃炉円滑化負担金」という2つが新たに転嫁されることが、経済産業省内で決められようとしています。

＜シリーズ第11回＞

今後の託送料金への負担転嫁について、もう一つ懸念されるのは東京電力福島第一原発の廃炉費用です。膨大な金額となります。これを託送料金に転嫁するために制度化し新たな負担金とすることが経済産業省と電気事業連合会で検討された経過があったうえで、今般新設の「廃炉円滑化負担金」の対象は「これ以外の原発に限る」とされたようです。歴史の教訓から言えるのは、権限を行使する側がそのような考えをもっていることは、いつでもそうする可能性が残されているということです。次のような報道があります。

① 東京電力福島第1原子力発電所の廃炉作業が難航している。事故後6年かけて調査したが、溶け落ちた核燃料（デブリ）の位置や状態など格納容器内部の状況把握は不十分だ。最難関である熔融燃料の取り出しや保管に関する工法の検討は進むが、具体化は遅れている。30～40年で廃炉を完了するという当初目標の達成は可能なのか、技術的な課題を探る。・・・調査技術の開発費用は約50億円に達する。明らかになったのは、炉心溶融（メルトダウン）を起こした格納容器内部は調査が難しいほど過酷な状況だという現実だ。・・・政府が9月に改定した廃炉工程表では、熔融燃料の取り出しを始める号機の決定を1年先送りして2019年にした。再調査でもうまくいかないと、その後続く廃炉工程にも悪影響が広がる。

＜2017年11月日本経済新聞＞

② ・・・作業が先延ばしになる大きな要因は機器開発の遅れだ。そもそも熔融燃料の形や成分などが分かっていないため設計を詰められない。・・・実際に熔融燃料を切ったりつかんだりする肝心の「手」の部分はめどがたたない。・・・熔融燃料が出す強い放射線への対応も課題だ。・・・装置の設置工事などで被曝する恐れもある。・・・政府は取り出し関連の技術開発に17年度までで約400億円もの補助金を投じたが、それでも基礎検討から抜け出せていない。東電の八木秀樹原子力・立地本部長代理は「21年の取り出し開始を目指すことに変わりはない」と主張する。・・・先に「取り出しありき」の辻つまあわせにすぎず実態とかけ離れている。

＜2017年11月日本経済新聞＞



③・・・事故から6年半が過ぎても、原子炉から溶け落ちた熔融燃料を最終処分する方法や場所を議論した形跡はうかがえない。2021年から熔融燃料を取り出すと強調するだけで、880トンにも上る量を確実に処理する技術も開発途上だ。・・・強い放射線のほかにリスクの一つとされるのが、熔融燃料のウランなどが再び核分裂反応を始める再臨界だ。・・・さらに心配されているのが最終処分の方法だ。・・・汚染度が最も高い使用済み核燃料を再処理して固めた廃液（核のごみ）は地下300メートルよ

り深くに封じ込める。福島第1原発から出る熔融燃料は世界でも前例がなく、通常の放射性廃棄物の対象外だ。・・・最終処分地を含め「方向性は出ていない」（原子力規制庁担当者）。政府は、核のごみの最終処分地ですら思うように選べずにいる。・・・ましてや熔融燃料は核のごみとは別に処分地を探す必要がある。・・・国民に約束した廃炉を確実にするためにも政府・東電は現実に合わせて計画を練り直す必要がある。

<2017年12月日本経済新聞>

**これらの記事で伝えてもらう状況もそうですし、ある意味でそれらを俟(ま)つまでもなく、あのような過酷な事故を起こした東京電力福島第一原発の廃炉作業には想像を絶するような大変な労苦が伴うに違いないと思っています。そして、福島での復興のためには、作業に携わる方々への敬意を持ちつづけ、どんな労苦が伴っても廃炉はやり遂げられねばならないと思ひ、それは今同時代を生きている私たち一人ひとりの課題でもあると思っています。その際、同時に忘れてはならないのは、それらの費用がどれ位かかり、それを誰がどのように負担していくかを明確にしておく、それを負担する人たちがきちんと分かって話しあっておかねばならないことだと思っています。**

そうした思いから、経済産業省に以下をお尋ねしています。

1. 東京電力福島第一原発事故の対処費用は、当初11兆円と発表されていました。その後、昨年にかけて21兆円を超えると発表されました。現在は25兆円となっているとも聞いています。これらのうち、廃炉に要する費用見通しは、当初から現在までどのように増加していったか、その増加要因も含めて教えてください。それらから考えて、今後は現在の発表費用が大きく増えていくことはないと考えてよいのですか。
2. 日本経済研究センターという研究機関が「廃炉費用に関しては現在の見通しは過去にあったスリーマイル島原発のそれを根拠に考えているが、今回の事故はとてもそのような規模や構造ではすまない。きちんと試算すれば、対処費用は50兆～70兆円になる」という報告もされています。そうした可能性があると考えられるのですか。
3. これまでもそうでしたが、そうした費用が増えていきそうになると、極論「東京電力が破綻するような状況になるから」「そうさせないために」と、それまでに無かった考え方や枠組みが貴省と大手電力の中で考えつかれて、それが既成事実のように進められるのではないかと危惧しています。何かの理屈をつけて、電気利用者（国民）への負担を求めるといったやり方です。今後、そうしたことが東京電力福島第一原発事故の廃炉費用に関しては起こらないのでしょうか。

以上



## ■グリーンコープでんき

- グリーンコープでんきの契約数は、12月3日現在、GC事業所やGC商品のお取引先も含め下表のとおりです。(※供給開始前含む)

単協	契約件数	契約容量(kW)
GC生協おおさか	52	225
GC生協ひょうご	32	160
GC生協とっとり	40	181
GC生協(島根)	71	308
GC生協おかやま	75	300
GC生協ひろしま	100	437
GCやまぐち生協	563	2,365
GC生協ふくおか	1,932	8,028
GC生協さが	109	571
GC生協(長崎)	143	626
GC生協くまもと	493	2,311
GC生協おおいた	278	1,159
GC生協みやざき	132	480
GCかごしま生協	216	913
事業所向け(低圧)	23	83
事業所向け(高圧)	57	4,300
合計	4,316	22,447

## ■11月は、以下の発電所で発電したでんきを電源としました。

### 【関西電力エリア】(発電所別構成比)

- 清掃工場A(大阪府、燃料:一般ごみ)2%と清掃工場B(大阪府、燃料:一般ごみ)4%、清掃工場C(兵庫県、燃料:一般ごみ)94%の電気でした。

### 【中国電力エリア】(発電所別構成比)

- すべて(100%)清掃工場D(島根県、燃料:一般ごみ)で発電したでんきでした。

### 【九州電力エリア】(発電所別構成比)

- 11月は、清掃工場E(福岡県、燃料:一般ごみ)94.8%、清掃工場F(鹿児島県、燃料:一般ごみ)4.9%で、残りの0.3%が、熊本県にあるグリーン・市民電力も参加したグリーンパワー小国合同会社の馬洗瀬小水力発電所で発電したでんきでした。
- 11月14日から電源として使用していますので、12月はもう少し馬洗瀬小水力発電所の構成比が高くなります。

## ■冬の節電には、これがお勧め!

- 窓には厚手のカーテンで断熱をする。
- 電気カーペットやエアコンなど暖房機器の設定温度は若干低めに。
- エアコンのフィルターは2週間に1回清掃を。
- エアコンは自動運転の方が節電に有効!!
- 便座暖房の設定温度は低めにし、ふたを必ず閉めることにより、年間で2千円も違うことも!

<資源エネルギー庁省エネガイドから>

## ■市民発電所

- グリーン・市民電力の発電所の2018年4月から9月までの実績です。特に故障や事故もなく順調に発電していますが、8月と比べて日射量が少なかったため、その分、発電量も少なくなりました。

発電所	出力(kW)	発電量(kWh)	売電額(円)
神在太陽光発電所	1,057	710,080	28,403,200
平池水上太陽光発電所	1,260	827,971	29,806,962
深年太陽光発電所	1,550	933,101	33,591,636
若宮物流センター	47	27,547	1,019,239
広島物流センター	47	29,662	1,097,494
やまぐち西部地域本部	54	36,263	1,196,679
グリーン未来ソーラ(10箇所)	244	99,831	2,096,451
合計	4,259	2,664,455	97,211,661

## ■グリーン電力出資金

- 皆さんから出資いただいたグリーン電力出資金の総額(実際に振り込んでいただいた額)は、8億6,972万円になっています。
- 出資目標額(積み立て目標額)は、11月26日現在で11億1,116万円になりました。

生協名	申込人数	申込件数	出資目標額
GC生協おおさか	223	250	18,150,000
GC生協ひょうご	103	125	8,676,000
GC生協とっとり	138	150	10,880,000
GC(島根)	221	227	11,590,000
GC生協おかやま	155	170	12,040,000
GC生協ひろしま	663	761	72,465,000
GCやまぐち生協	602	691	44,270,000
GC生協ふくおか	5,550	6,397	534,757,000
GC生協さが	328	366	44,565,000
GC生協(長崎)	581	638	56,503,000
GC生協くまもと	1,503	1,698	124,989,000
GC生協おおいた	792	875	69,634,000
GC生協みやざき	301	335	27,785,000
GCかごしま生協	703	771	74,852,000
合計	11,863	13,454	1,111,156,000

- グリーン電力出資金は、市民発電所の建設費用などの一部に充てています。
- 2018年11月末支出総額は8億4,881万円で、残高は2,091万円になっています。
- 市民発電所の建設は、継続して調査や検討をすすめています。今後ともグリーン電力出資へのご参加をよろしくお願ひします。

これまで出資いただいた金額	869,720,000
これまで支出した事業と金額	848,810,221
神在太陽光発電所、平池水上太陽光発電所、深年太陽光発電所、若宮物流センター、広島物流センター、やまぐち西部地域本部、グリーン未来ソーラー発電所、豊浦太陽光発電所、馬洗瀬小水力発電所、杖立温泉熱バイナリー発電所、ながわ小水力発電所(建設中)、しましま小水力発電所(準備中)、霧島太陽光発電所(準備中)、熊本菊池太陽光発電所、国東第二自然電力太陽光発電所	
グリーン電力出資金の残高	20,909,779